

→ 国際交流員パトリック・ルムラーの

ドイツを語るパトリック

Vol.3

夏休み



どんどん暑くなってきましたが、皆さん元気している？

日本の8月は暑くて、夏休みがあり、生徒は学校に行かずに家族と海に行ったり、自分の好きなことをしたり、試験に備えて勉強したりする。ドイツの生徒にとっても8月は特別な月である。

8月に入ると、6週間の長い夏休みが終わり、ドイツの生徒は新学年を迎える。日本だと4月1日から全都道府県は新学年に入るが、ドイツでは州によっては、新学年の初日が異なる。大体、ニーダーザクセン州をはじめ、プレーメン州など、北ドイツに位置している州が最初に新学年を迎える。今年だとニーダーザクセン州の生徒は8月5日に新学年に入るが、南ドイツに位置しているバイエルン州の生徒はその2日前、つまり8月3日に、夏休みに入る。

これを読んだ日本人はドイツ人が混乱しないのだろうかと思うかもしれない。実は混乱する。しかも、これだけでも十分混乱するのに、夏休みの初日と最終日は決定ではなく、同じ州でも毎年変わる。たまたま、前年と比べると4週間も異なる年がある。それでも、こんな夏休みのプランニングには深い意味がある。

ドイツでは子供の夏休みに合わせて、2週間から3週間ぐらい休む親も多いだろう。子供の夏休みが始まる時に、自家用車やキャンピング・カーなどで地中海方面に向かう家族は急に増え、ヨーロッパの真ん中に位置しているドイツは、多くの北欧の人にトランジット国として使われ、夏の間に毎年渋滞が起こる。ドイツの高速道路は無料なので、わざと遠回りし、有料のフランスの高速道路を避けて、ドイツ経由で地中海方面に向かうオランダ人などもいるらしい。

こうした中で、ドイツの16州の州政府は交通渋滞を少しでも減らすため、夏休みの初日と最終日を州によっては、毎年違う日にしているのだ。6週間の夏休みは全州を見れば3か月間も続くので、観光地や旅行代理店などの余暇に関わる業界にはこうした夏休みのプランニングがいい影響をもたらすかもしれない。会社の従業員は同じ期間に全員が固まって休暇を取らないので、会社の負担も減る。

それでも、州政府の夏休みのプランニングをよくないと思っているドイツ人もいるだろう。私は長年、州の境目に住んでいた。友達2人兄弟で、兄と弟は別の州の学校に通い、毎年、親はバカンスに行くために2州の夏休みを考えねばならなかった。もしもその2州の夏休みがちょうど6週間も異なるとすると完全にバカンスに行けなくなる年があるかもしれないのだ。

下野市民とドイツ・ミュンヘン大学生の交流会

下野市特産品の夕顔で、ふくべ細工作りやクイズをして交流を深めませんか？

- 日 時 8月25日(火)午後2時～4時(1時30分受付開始)
- 場 所 きらら館 研修室及び調理室
- 定 員 30名(小学生低学年以下は保護者同伴)
- 参加費 1作品 500円
- 持ち物 太・細筆 各1本、筆をふくための雑巾、うわばき(子どものみ)
- 申し込み 8月10日(月)から21日(金)までに生活安全課(☎40-5555)へお申し込みください。当日までに絵柄を考えてきてください。
- 主 催 下野市国際交流協会交流委員会
協会会員でない方も参加可能です。皆さまのご参加をお待ちしています。

